「あまみエフエム　ディ！ウェイヴ」放送原稿（５月２５日（金）放送分）

テーマ　新着図書紹介

　あまみエフエム　ディ！ウェイヴをお聞きの皆様，おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。

　今朝は，奄美図書館の新着図書についてご案内します。

　まずは，一般書のご案内です。

　鹿児島市出身の鬼塚忠さん作の『花いくさ』です。互いに切磋琢磨し心と技をみがいていた，花の名手・池坊専好と茶の名人・千利休は，深い友情と信頼で結ばれていました。おだやかな日も束の間，秀吉に切腹を命じられた利休は非業の死を遂げます。専好は，利休を失い自暴自棄になります。花をも捨てかけた専好を支えたのはほかでもない，花の力でした。普段何気なく使っている，花を「生ける」という言葉の本意をしみじみとかみしめることのできる本です。

　赤ちゃんをもつと誰でも気になる夜泣き。その悩みを解決してくれる，清水悦子さんの『赤ちゃんにもママにも優しい安眠ガイド』です。すでに３０００人以上のママが実践し，ネット上で絶賛された本。ひとり寝を勧める欧米式のネンネトレーニングではなく，日本の風習に合わせた添い寝で赤ちゃんの睡眠改善方法を伝えています。生活のリズムや寝かしつけのやり方を変えるだけで，驚きの変化を実感できるはずです。夜泣き，寝ぐずりでお困りのママへ安心と笑顔を届ける本です。ぜひ一度手にとってみてください。

　次は，児童書のご案内です。

　マイケル・キャッチプール作の『空のおくりもの』です。あるところに，雲から糸をつむいで，布をおる少年がいました。あさの雲から金いろの糸を，ひるの雲からまっ白な糸を，ゆうやけ雲からあかねいろの糸をつむぎます。
　少年は，かあさんから教わったとおり，"空のおくりもの"を少しもらって，必要なだけ布をおりました。ある日，少年のすばらしいマフラーをめざとくみつけた王さまが，たくさんの布をおることを命じます。少年は「それはよくはありません」と王さまをさとしますが，王さまは，がんとしてききいれません。仕方なく少年が布をおりはじめると，やがて，空から雲がどんどんへり，雨がふらない日がつづいて…。
　多くを求めずに暮らすスタイル，自然と共生して生きていくことを伝える，心あたたまる本です。

幼稚園に行くのを嫌がっている子はいませんか？今日もだれかが泣いている。たけしくんとまなちゃんとつばさくんが泣いている。「ようちえんいくのいやや。ようちえんいくのいやや。ようちえんいくのいややー！」子育て経験のある人ならば，「あるある！」と思わずうなずいてしまう朝の光景。なんでいやなのかな…。「えんちょうせんせいにあいさつするのがいややー」「ももぐみやからいややー」理由はいろいろ。でもね，本当は…「おかあちゃんといちにちいっしょにいたいだけなんやー」。子どもの気持ちを深く理解する長谷川義史さんの『ようちえんいやや』は，すべての園児への応援歌です。大胆さ，元気，著者の優しさがあふれています。親子で大笑いしたあとに、幼稚園が大好きになる一冊です。

最後に郷土に関する本のご案内です。

奄美郷土研究会の会員であり，鹿児島土地区画整理協会大島事務所所長である岩多雅朗さんは，江戸末期から現在に至る名瀬の街の成り立ちについて資料を整理され，郷土研究会の例会で発表されていましたが，今回同じく奄美郷土研究会の弓削政己さん，中山清美さん，国立民族学博物館准教授の飯田卓さんとの共著で出版されたのが『名瀬のまち　いまむかし』です。この本は，江戸末期の薩摩藩の仮屋から白糖工場，そして明治・大正から戦前，そしてアメリカ軍政府時代から現在にいたる名瀬の街の成り立ちが詳しく解説されています。
巻頭にはカラーの図版が多く掲載され，巻末には年表もあり，名瀬の街を知る貴重な本です。

これから雨の多い季節になります。雨の日は，ゆっくりと読書を楽しまれてはいかがでしょうか。皆様のご利用をお待ちしております。

鹿児島県立奄美図書館でした。